

式 辞

厳しい寒さも和らぎ、春の息吹が感じられる今日の佳き日、ここに滋賀県立虎姫高等学校第六十六回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、本校にとりましてこの上ない慶びとするところであります。

ご来賓の皆様には、公私ともにご多用の中ご臨席賜り、卒業生の門出を共に祝していただきますことを、高壇からではございますが、厚くお礼申し上げます。

また、ご列席頂きました保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございませう。高校時代の様々な経験を経て、立派に成長されたお子様の姿をご覧になって、感慨もひとしおのことと存じます。改めまして心よりお祝い申し上げますとともに、この間、賜りました本校への深いご理解と暖かいご支援に感謝申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を手にした一九五名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございませう。皆さんは本校入学以来、勉学や部活動に、あるいは虎祭をはじめとする様々な学校行事に一生懸命取り組み、それぞれの目標を達成するため粘り強い努力を重ねて、卒業の日を迎えられたと思います。また今日まで、毎日が順風満帆に過ぎた訳ではなく、周りにいた人との別れのつらさ、見通しを持たない歯がゆさなどを感じた日々もあったことと思います。今、三年間の様々な場面で、保護者の皆様や周囲の多くの人の支えや励ましがあつたことを思い出し、感謝の気持ちを忘れないでください。そして高校卒業後の皆さんが、誰かに守られる存在から、誰かを守れる存在へと成長していかれることを期待しています。

皆さんの人生のひとつの節目となる今日の新たな門出を祝し、これからの皆さんに私の願いをふたつお伝えして、餞の言葉にしたいと思います。

ひとつは「高い志を持ち続ける」ということです。皆さんは二学期の始業式に紹介した吉田松蔭の「志を立てて、もつて万事の源となす」という言葉を覚えてくれているでしょうか。「志を立てることが全ての物事の始めとなる。」ということですが、これからの人生においても自分の夢や目標を実現していく際に待ち受ける多くの困難にひるむことなく、自分の中にある志の旗を高く掲げることが忘れないでいてほしいと思います。

医師であり随筆家でもあつた斎藤茂太さんは「新しいことに挑戦するとき、もっとも大切なことは、現在の自分の能力を考慮して、できるかできないかを予測することではなく、「やる気」があるかないかである。」と言っていますが、できない理由ばかり捜すより「高い志」を持ってできる工夫を考えていく方が、ワクワクした思いで、自分の人生を心豊かなものにしていけるのだと思います。

次に「いつも広い視野を持つ」ということです。情報機器の急速な発達によって、私たちはよりスピード感を持って仕事をこなし、人間関係でも相互の連絡に即答しなければいけないと思ひこむ、緊張感に満ちた社会に生きるようになりました。また、様々な出来事が起こるたびに、国民感情や世論が変動する振れ幅が大きくなり、変化の周期もどんどん短くなつていのではないかと感じます。それは私たちが広い視野で物事を考えたり、深く人を見つめたりする余裕を失っていることの表れかもしれません。

時折自分を振り返り「予断や偏見そして短絡的な感情に左右されて、人や物事を判断してはいないか」「流通する一面的な情報を鵜呑みにせず、複数の情報を手に入れ、自分の言葉で考えているか」など、私たちが生きるこの時代において、皆さんが社会と関わり、国家の一員として、叡智をしばり、誠実に考えていくべきことがたくさんあると思います。

作家であり文芸評論家の丸谷才一さんは、定説や通説に無批判に追従することを戒めて、「時代時代の風潮や歴史的条件のせいで、ある視点からしか見ることができない、全体を見通せないということがある」。しかし「大きな変動期には、いろんな条件が揺れて、新しいものが見えてくることがある」と述べています。皆さんがこれからの新しい時代を生き、その変化を乗り越えていく世代として、「先人の知恵に学ぶ謙虚さ」「流行に流されない骨太さ」「頑迷なこだわりを見直す柔軟さ」などを身につけ、大きく羽ばたいていかれることを願っています。

第六十六回生、一九五名の卒業生の皆さん。本校は大正九年の旧制中学開校以来、皆さんの卒業をもって卒業生が二万人を超えることになりました。創立以来、脈々と受け継がれてきた「質実剛健」の精神や「文武両道」の実践は、皆さんが今日まで引き継ぎ、これからも後輩へと伝えられていきます。卒業生の皆さんが補習や自宅学習の期間に入った二月、図書館の一角に「姉水文庫」を開きました。各方面で活躍されている先輩の書かれた著書、あるいは先輩の評伝を寄贈いただき収めたものです。まだ収蔵数は六人と少ないですが、時間があれば覗いてみてください。二〇二〇年に本校が百周年を迎えるまでに百人の同窓生からの寄贈で本棚が埋め尽くされることを、そしてその中に今日卒業する皆さんの書いた書籍が含まれていることを、私は期待し楽しみにしています。

なごりは尽きませんが、いよいよお別れの時となりました。いつまでも虎姫高校は皆さんの母校です。一人で辛くなった時には、ここで仲間や先生たちと過ごしたことを思いだし、誰かがあなたを必要としていること、そして他の誰かのためにきっと何かができる自分であることを信じて、前進して下さい。

卒業生の皆さんの前途洋々たる未来への門出を祝福するとともに、ご健康とご多幸、そしてご活躍をお祈りし、式辞といたします。

平成二十六年三月一日

滋賀県立虎姫高等学校長

武 友 建 史